



秋田県立比内支援学校 かつの校 教育プラン

I 学校の現状と課題・学校を取り巻く将来の状況の予測

【学校の現状】

- 令和2年度の児童生徒の在籍数は小8名、中16名、高21名の計45名であり、障がいが多様化傾向が続いている。児童施設の東山学園から約3割弱が通学しており、卒業後、自宅や地元に戻るケースが多くなった。スムーズな移行のため、早い段階から地元の関係機関と連携して就労先や日中活動の場を探している。一般就労については、希望者全員が実現できるように、新たな職場開拓は地場産業を切り口に探す必要がある。
- 地域での学習に積極的に取り組み、学校で学んだことが変化する状況でも発揮できる「本物の力」の育成を重視している。伝統的な花輪ばやしへの参加をはじめ、小学部は近くの老人施設との交流、中学部は花輪中学校やさくら保育園との交流、高等部は近隣の高等学校や横丁（町内会）との交流を継続している。花輪商店街での清掃活動や花いっぱい交流、NEXCO東日本とのコラボによる花輪SA花壇設営など、地域貢献活動を展開し、児童生徒の自己肯定感や社会的価値観を高めている。また、開校42年目にして初めて文部科学省委託「特別支援教育に関する実践研究充実事業」研究推進校指定を受けて公開研究会を開催した。その成果を基に、授業の質の向上を目指している。
- センター的機能は、市町教育委員会との連携ができており、地域研修会の開催や研修会への参加協力が軌道に乗っている。

【課題】

- 良好な人間関係を築くことが苦手だったり、自己肯定感や自己有用感が低かったりする児童生徒が増えており、「おだやかに、ゆるやかに、ていねいに」を基本とした指導が必要である。定期的な個別面談や、日々の何気ない会話から解決の糸口を一緒に探し、情緒の安定を図ることが不可欠である。また、東山学園等の関係機関と連携しながら、問題行動の予防的かつ組織的な対応も課題である。
- 地域の園、小・中学校、高等学校が自校解決力を高めるために、地域の上級コーディネーターとの連携や職員研修等を通して、人が変わっても機能する校内支援体制を一緒に考えていかなければならない。

【学校を取り巻く将来の状況の予測】

- 今後5年間の児童生徒数は、40名前後で推移すると思われる。更に地域にかつの校の魅力を発信し、教育相談や学校見学につなげていく必要がある。また、隣接する東山学園からは措置入所、年度途中の入所などの可能性があり、二次障がいや生徒指導の難しいケースの転入が予想される。

II 目指す方向性・学校像や幼児児童生徒の姿

【目指す学校像】

- 安全で明るく、きれいな学校
- 地域を笑顔と元気にする学校
- 子どもたちの夢を叶える学校

【目指す児童生徒の姿】

- 健康・・・心身ともに健康になろうと努力する子ども
- 誠実・・・喜びをもって精一杯努力する子ども
- 自立・・・自分のことは自分の力で成し遂げようと努力する子ども

Ⅲ 具体的な目標・取組・推進指標

具体的な目標・取組	推進指標
<ul style="list-style-type: none"> ○文部科学省委託の実践研究充実事業を活用した授業改善と職員の専門性の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・「かづの校授業づくりスタンダード」の具現化 ○「街は大きな教室だ」を合言葉に、本物の体験の重視 <ul style="list-style-type: none"> ・日々の学習と地域における学習との計画的関連付け 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業づくりのツール（人と関わる力段階表、授業づくりチェックリスト）を活用した授業づくりの推進 ・「かづの校授業づくりスタンダード」の実践と改善 ・全校縦割り活動によるりんごプロジェクト、体力づくり、ピカピカタイムやアップルサポーターを活用した活動の推進 ・小学部〇〇プロジェクト、中学部さくら保育園との交流、高等部リンゴレンジャーの活動の発展
<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の豊かな社会参加を目指す教育活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・共生社会の実現を目指したインクルーシブ教育の推進 ○卒業後の生活が豊かになるキャリア教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材を活用した作業学習の充実と作業製品の質の向上 ・進路学習、職業教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校（園）間交流の内容の充実 小～花輪小、花輪北小、わんぱくハウス中～花輪中、小坂中、さくら保育園 高～十和田高、小坂高、花輪高 ・居住地校交流実施率向上 小：60% 中：40% ・系統的な障害理解出前授業の推進 ・高校生ボランティア養成講座の開講 ・作業製品改善会議の年2回開催 ・地域の専門家による作業製品への助言 ・希望する生徒の就職率100%の達成 ・関係機関と連携した就労先開拓の促進 ・児童生徒の自己理解の促進
<ul style="list-style-type: none"> ○地域の学校等の自校解決力のアップ <ul style="list-style-type: none"> ・幼・保、親子教室への支援 ・地域の職員全体研修会とのコラボによる地域研修会開催 ・地区高校3校への支援の充実 ・地域の教職員の特別支援教育に関する専門性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の幼保・学校等での園内・校内研修のニーズに応じた内容充実 ・親子教室への協力と、関係機関との情報共有 ・鹿角地区職員研修会で話題提供とロールプレイによる理解推進（年2回） ・高等学校特別支援隊としての各校研修会開催（年1回以上） ・かづの校を会場に地域向けの研修会やアップル相談会の開催（年2回～3回）
<ul style="list-style-type: none"> ○地教委・自立支援協議会との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・就学前→就学後→通級指導教室との関わり ・医療・福祉・教育の連携システムによる途切れない支援体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校の通級指導教室担当との連携強化 ・鹿角・小坂自立支援協議会への協力（全体会、子ども部会、大人部会 各年2回） ・鹿角出張所、教育委員会との児童生徒に関する定期的な情報交換